

【講演】

主体的・対話的で深い学びを 実現する授業改善

－ 学びの「質」を高めるために－



東京大学高大接続研究開発センター
しろぐち はじめ

教授 白水 始 氏

今年度は、小・中において新学習指導要領の周知・徹底期間です。
また高等学校においても、今年度中に学習指導要領の改訂が行われます。
新学習指導要領では、「何を知っているか、何ができるか」「知っていること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか」の三つの柱の資質・能力を育成することが求められています。
新しい時代に求められている資質・能力を育むため、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について、事例を交えて御講演をいただきます。

プロフィール

2000年から中京大学、2012年から国立教育政策研究所に勤務し、2016年度より東京大学に異動。協調学習に基づく授業づくりを全国の先生方と共に行う東京大学CoREFのユニット・リーダーを務める。
「キー・コンピテンシー」の改訂版を考える「OECD Education 2030」の日本代表。JICA草の根技術協力事業「埼玉版アクティブ・ラーニング型授業による授業改善のための教員研修支援」に協力。
今後の教育のための授業法、評価、ICT活用、教師支援を一体的に進める。

主な著書等

- ・「1 学びをめぐる理論的視座の転換」秋田喜代美(編)『教育 変革への展望第5巻 学びとカリキュラム』岩波書店、2017
- ・『資質・能力 理論編』東洋館出版社、2016
- ・「新たな学びと評価は日本で可能か」三宅なほみ・益川弘如・望月俊男(監訳・著)『21世紀型スキル - 学びと評価の新たなカタチ - 』北大路書房、2014